

バイオビジネス環境経済学特論 (2 単位)

担当者氏名 大久保 研治

◆学習・教育目標 (到達目標を記載)

企業のリスクマネジメントのひとつとして環境対応が不可欠となっている中で、経済活動がいかなる環境影響を社会におよぼしているのか捉える必要がある。そこで本演習では、環境経済学の理論を理解し、企業の経済活動の社会的コストを経済評価する方法の習得を目標とする。ここでは実際に調査・分析することで、環境評価手法を習得することを本演習の目標にする。

◆取り扱う領域 (キーワードで記載)

ミクロ経済学

環境経済学

環境評価手法

アンケート調査

計量経済学

統計学

◆授業の進行等について

	テーマ	内 容	準備学習(予習復習)等の内容と分量
1	オリエンテーション	本演習の基本的な課題、目的、演習の予定	具体的な予習・復習については演習の中で指示する。1 回目の演習までにミクロ経済学の基本的な考え方(需要と供給、余剰、効用)については予習しておくこと(テキストを持ってない場合は参考書を参照)。予習・復習それぞれ 1.5 時間程度。
2	ミクロ経済学の理論	本演習で使用するミクロ経済学の理論を理解する。	
3	(第 2 回～4 回)		
4			
5	バイオビジネスと環境	環境経済学の視点からバイオビジネスを考える。	
6	(第 5 回～8 回)		
7			
8			
9	環境評価の方法	先行研究をもとに環境評価の方法を理解する。	
10	(第 9 回～10 回)		
11	環境評価手法の習得	実際に調査票を作成し、調査・分析をする。	
12	(第 11 回～14 回)		
13			
14			
15	結果の考察・まとめ	結果を考察しまとめる。	

◆教科書及び資料 (授業前に読んでおくべき本・資料)

書名／著者／発行所 (発行年)

吉田文和・北畠能房編『環境の評価とマネジメント』岩波書店、2003 年

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所 (発行年)

M・グレゴリー・マンキュー『マンキュー経済学 I ミクロ編』東洋経済新報社。

◆評価の方法 (レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト)

授業への参加状況：50%、レポート 50%

◆オフィスアワー

毎週火曜日午後・研究室 (18 号館 7 階)

◆その他受講上の注意事項